

令和6年度に係る自己点検・評価の報告書

令和7年6月30日
理 学 部

1. はじめに

理学部では、令和6年度教育課程・学生支援・学生受入を対象とする自己点検・評価を実施し、以下のように結果を報告する。

2. 実施体制・手順

教育課程及び学生支援は教務・学生支援委員会、学生受入は入試検討委員会が所掌していることから、各々の委員会が根拠資料をもとに実施内容の適切性について確認し、更に学部長及び副学部長並びに学科長及び教務・学生支援委員長から構成される教育点検・評価・改善専門委員会にて実施内容を確認した。

3. 総括

今回対象となった項目のうち、以下の教育課程の項目については「適切であるが注意が必要」と判断し、これらの事項を維持・向上させるための方策を検討した。

①標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則して適正な状況にあるか。

これ以外の項目では、今回対象となった教育課程・学生支援・学生受入の項目について、すべて「適切である」と判断した。今後、理学部教育評価委員会の外部評価など第三者から評価を受ける取組の実施検討も含め、引き続き教育の質向上に努めていく。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

特になし

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの
特になし

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの
特になし

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

以下のような対応により、令和2年度及び令和3年度入学者に係る「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率の改善を目指すとともに、期待される能力を身につけて卒業できるように継続して指導を行っていく。

- ・『「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率』改善の視点を含めて、カリキュラムや教育方法についての検証や改善方法検討を行う。
- ・毎年半期ごとの成績不振学生の把握、対象学生への担任教員等による面談や履修・指導の実施。
- ・アカデミックアドバイザーリー制度（AAA）の利用を薦める。

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの
特になし